



筑西労基署 広報

第26号

平成22年6月2日

編集発行：筑西労働基準監督署

筑西市下中山581-2

0296(22)4564

<平成21年 労働災害は265件 23%減少で過去最低 / 減少率でも県内トップ>

平成21年の死傷労働災害は、265件(休業4日以上)と過去最少となりました。平成元年には645件も発生しておりましたので、約20年で半減していることとなります。特に、製造業で31.5%も減少しているのが大きく影響しています。

茨城労働局の調査によると、茨城県全体の減少率の平均は14%(製造業では19%)。筑西労基署管内の減少率は県内トップです。平成22年3月現在の製造業のリスクアセスメントの導入率が40%を超えるなど、年々導入している企業数が増えてきていますので、こうしたことが災害が減少している要因の一つと考えられます。

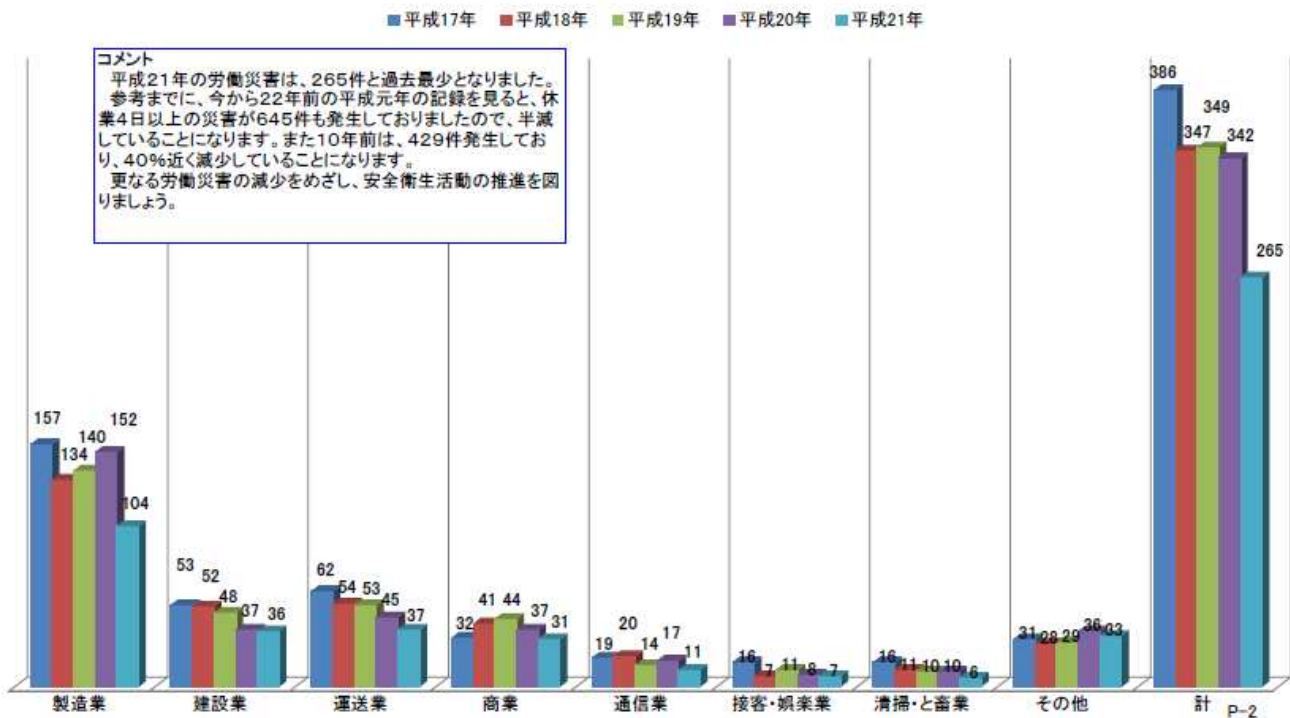
一方、死亡災害については前年同様、2件(製造業と建設業)発生しています。

【豆知識】

22年前の平成元年には、死亡災害は8件発生していました。10年前の平成12年も8件でしたので、近年は著しく減少しています。

また、過去に筑西署管内では、死亡災害の無災害期間が374日に達したことがあります。筑西労基署では、この記録を目標に、死亡災害撲滅のための運動を強力に展開することとしておりますので、ご協力をお願いいたします。

グラフ1-2 平成17年～平成21年・業種別年別災害発生状況 (休業4日以上)



コメント
 平成21年の労働災害は、265件と過去最少となりました。参考までに、今から22年前の平成元年の記録を見ると、休業4日以上の災害が645件も発生しておりましたので、半減していることとなります。また10年前は、429件発生しており、40%近く減少していることとなります。更なる労働災害の減少をめざし、安全衛生活動の推進を図りましょう。

<安全大会等の行事に労基署の支援を / 平成22年度労働災害防止団体連絡会議>

5月13日筑西市の県西生涯学習センターにおいて、15の災害防止団体が出席し、平成22年度労働災害防止団体連絡会議が開催されました。

筑西労基署からは、22年度はメンタルヘルス対策及び過重労働による健康障害防止対策、定期健

康診断の有所見率改善に向けた取組み、死亡災害を撲滅するための無災害運動の推進の3点を強力に実施していくことにすることを説明し、各団体の協力をお願いしました。

意見交換では、筑西労基協会から配信されている「災害発生情報」について、再発防止策を迅速に展開できるので良いという意見がありました。また、団体が実施する安全大会等の行事について、監督署からの



積極的な支援を要望する声があり、筑西労基署としても積極的な支援を行っていく旨を回答しました。

筑西労基署では、「安全衛生統計」や「災害発生情報」などの資料の提供を積極的に行っております。

皆様の職場で安全衛生活動などにご活用いただければ幸いです。

ご希望の方は、第2課(深津又は正岡)までご連絡ください。

話題 ~ 積極的に安全衛生活動に取り組んでいる事業場をレポートします ~

荷積み用に移動式のプラットホームを設置 / 大泉砕石(株) 桜川市

大泉砕石(株)では、フレコンバック状の荷をダンプトラックに積み込むときの安全を考え、仮設のプラットホーム(ダンプ積み込み用専用台: 写真)を場内に設置しました。

荷積み作業時に、トラック運転者が荷台又は荷の上から墜落・転落する災害が全国的に多発しており、死傷者数を事故の型別に見ると、墜落・転落事故が全体の約3割を占めています。

ダンプトラックや大型車ともなると、荷台の高さは2mを超えます。また、荷を積んだ後の荷台は足場も悪く、少し油断すると足を踏み外しなどして転落の危険があります。

大泉砕石が設置したプラットホームは、タラップ付きで昇降も楽々。これを使えば荷台に載らずに、荷積みの誘導やシート掛けなどが可能になります。また、移動が可能であることも特徴の一つで、レッカーで吊上げることでも可能です。

このほか、大泉砕石では、フレコンバックの積み込み作業についての「作業標準書」を作成し、ダンプ運転手などへの周知にも努めています。



【お知らせ】

筑西労基署広報は、茨城労働局ホームページ(下記)でもご覧になれます。

http://www.ibarakiroudoukyoku.go.jp/corner_kantoku/index.html

